

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	DAW I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作 編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動もしている。				
<b>授業概要</b>					
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
<b>到達目標</b>					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 16～19回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 20～29回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ				
【後期】 30～34回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 35～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論 I		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	音楽理論 I			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。				
<b>授業概要</b>					
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。					
<b>到達目標</b>					
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を旨とする。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)				
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)I-II-III-IV-V-VI-VII・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)				
【前期】 11～16回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)I-II-III-IV-V-VI-VII・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)				
【前期】 17～19回目 (前期試験)	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、/ Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か、Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、				
【後期】 20～25回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる				
【後期】 26～30回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調、各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)				
【後期】 31～35回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティを上げるような学習。				
【後期】 36～37回目 (後期試験)	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	44回(88単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
<b>授業概要</b>					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
<b>到達目標</b>					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～6回目	ビジネス文書				
【前期】 7～14回目	コミュニケーションについて				
【前期】 15～17回目	・音楽活動における基礎知識 音、電気、マイクスピーカーについて				
【前期】 18～19回目	所得税と源泉徴収・確定申告				
【前期】 20～23回目	音楽業界基礎知識#1-3				
【後期】 24～44回目	音楽業界基礎知識#4-25				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習 I		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
<b>授業概要</b>					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
<b>到達目標</b>					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	個人プロフィール制作				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブル I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブル I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
<b>授業概要</b>					
<p>コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～33回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
34～38回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【前期】 39～42回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 43～70回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 70～71回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【後期】 72～74回目 (後期試験)	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ヴォイストレーニング I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。 現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。				
<b>授業概要</b>					
楽器である身体を鍛える為の筋カトレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。 シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。					
<b>到達目標</b>					
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～4回目	ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。				
【前期】 5～8回目	発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。				
【前期】 9～12回目	言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。				
【前期】 13～16回目	ワードを混ぜ合わせる事により普段思ひもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす				
【前期】 17回目	「前期試験」				
【前期】 18～20回目	高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。				
【後期】 21～23回目	【前期】18～20回目を継続				
【後期】 24～26回目	声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。				
【後期】 27～29回目	歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。				
【後期】 30～32回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。				
【後期】 33回目	後期試験				
【後期】 34～37回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカリスト基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ヴォーカリスト基礎知識	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴22年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。				
<b>授業概要</b>					
ヴォーカリストとして活動していく上で必要な基礎知識を学びながら、音楽・エンターテインメント的見識を元にした様々な体験を重ねる。					
<b>到達目標</b>					
ヴォーカリストに必要な基礎的知識を学ぶことによって、活動していく上でのスキルを身に付ける。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	音楽の三大要素メロディ・ハーモニー・リズムについて知る 音階・音程・コード・拍子等について知る コード理論を知る(トライアドまで) 音楽ジャンル曲調について知る フィジカルトレーニング				
【前期】 6～10回目	ステージング・ライブパフォーマンスについて知る 発表会(2週) フィジカルトレーニング				
【前期】 11～15回目	マイクについての知識、ダイナミックとコンデンサー、各メーカーの特徴などヴォーカルが知っておくべきマイク・機材の特性を知る フィジカルトレーニング				
【前期】 16～20回目	発表会を振り返り、ヴォーカルパフォーマンスにおける長所・短所を自覚する 著作権について知る 音楽専門用語・業界専門用語について知る				
【後期】 21～24回目	ライブ業界(ライブハウスやホールでのイベント・ライブ運営、自身で外ライブを行うまでに必要な過程など)を知る オーディション・プロジェクトへのエントリー用プロフィール作成を通じてセルフプロデュースを知る フィジカルトレーニング				
【後期】 25～29回目	アカペラコーラス講習 コード理論を知る(7thコード・テンションコード・分数コードなど) 有名なカバー曲からアレンジ能力を知る フィジカルトレーニング				
【後期】 30～34回目	実践型コード理論・音楽理論を通じて 作曲・編曲に活かせるテクニックを知る ジャンル毎のグルーブ・ビートからリズムの構造を知る フィジカルトレーニング				
【後期】 35～37回目	MCや作詞を通じて 言葉での表現技術を知る 良質な音楽が扱われている映画やライブ・コンサート等の鑑賞 アカペラコーラス講習 フィジカルトレーニング				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ヴォーカルテクニック I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験10年 ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。				
<b>授業概要</b>					
歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。					
<b>到達目標</b>					
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係</li> <li>・母音~子音~母音の流れに対する発音との関係</li> <li>・オケのリズムアプローチとの関係</li> </ul>				
【前期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なスケルトトレーニング</li> <li>・フレーズを抽出、その中での実践</li> <li>・1コーラスでの実践</li> </ul>				
【前期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なメソッドの修練</li> <li>・ハミングでの歌唱</li> <li>・フレーズでの実践</li> </ul>				
【前期】 13～16回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なメソッドの反復</li> <li>・1フレーズを抽出、実践</li> <li>・1コーラスでの実践</li> </ul>				
【前期】 17～19回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認</li> <li>・各共鳴腔の増減のコントロール</li> <li>・フレーズ、1コーラスでの実践</li> </ul>				
【後期】 20～23回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認</li> <li>・息の量の増減、そのコントロール</li> <li>・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え</li> </ul>				
【後期】 24～28回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性</li> <li>・1フレーズの抽出、反復</li> <li>・1コーラス内での実践</li> </ul>				
【後期】 29～33回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ</li> <li>・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認</li> <li>・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック</li> </ul>				
【後期】 34～37回目	学んだこと全ての確認、復習、修正				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

## 専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターヴォーカルパフォーマンスI		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターヴォーカルパフォーマンス I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	<p>実務経験20年。大学卒業後にサラリーマンを経てギターを始めた。未経験からギターを弾くことを、プロアマ問わず指導することに定評がある。</p> <p>これまでに演奏をサポートしたメジャーアーティスト約200組。自身もエイベックスグループからバンドデビュー経験を持つ。</p> <p>また、3歳からクラシックバレエを習い日本バレエ協会に所属し、千葉ロッテマリーンズ公式チアリーダーや有名タレントのダンス演技指導者などプロのダンサーとしても現場をこなす。音楽番組やテレビ出演も数知れず多数。</p>				
<b>授業概要</b>					
ギター・歌の基礎力を学びつつ、歌いながらしっかりとしたギターの音を出すこと、魅力的な歌声で歌うことを意識して、存在感のあるパフォーマンスを身につける。					
<b>到達目標</b>					
バンドのセンターを担うギターヴォーカル。授業内で機材の扱い方、歌いながらギターを弾くときのポイントを習得して、各自が自分らしいアーティスト力を発見。ライブやコンテスト等に挑戦していく。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	・ギター運指練習、指板上の音を把握しながら弾けるようにする。				
【前期】 6～10回目	・発声や腹式呼吸の練習をしつつ、課題曲を使い歌声に活かし方を追求する。				
【前期】 11～15回目	・ギターボーカルやオリジナル曲のアレンジなどで有益なコードワークやギターのオブリ、音楽理論、簡単なソロに挑戦。				
【前期】 16～20回目	・ギターを使ったリズムトレーニング				
【後期】 21～24回目	・ギターテクニックもまじえた運指練習				
【後期】 25～29回目	・課題曲を使い、前期で学んだソロや音楽理論を実践に取り込んで、ギターを弾きながら歌う。				
【後期】 30～34回目	・ギターの音色の研究。エフェクターやアンプを使用し、音作りを自力で出来るようにする。				
【後期】 35～37回目	・ライブ・コンテストに向けて授業内で取り組み、実践への挑戦。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターヴォーカル課題曲 I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターヴォーカル課題曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験18年 自己のバンドでメジャーデビュー解散後はゲームコンテンツなどに楽曲提供、レコーディングに参加、現在は様々なアーティストにライブサポート、ギターレコーディングなどで活躍				
<b>授業概要</b>					
ライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。					
<b>到達目標</b>					
校内のみならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターヴォーカルとしてのポテンシャルの向上を図る。					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性				
【前期】 6～10回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)				
【前期】 11～15回目	演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・エフェクターの使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。				
【前期】 16～19回目	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う・演奏楽曲に使われるメジャー&マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復)・自身のパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等				
【後期】 20～24回目	自身で選んだ楽曲の分析、そこから見える自己プロデュース ・楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ。 ・講師から学生へのイベント前最後アドバイス等				
【後期】 25～29回目	今後への課題、見直し				
【後期】 30～34回目	ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方聞かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。				
【後期】 35～37回目	授業内にて実践発表 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	楽器実技 I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	楽器実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年。サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。				
<b>授業概要</b>					
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習。「ギターリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。					
<b>到達目標</b>					
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習					
<b>授業計画・内容</b>					
【前期】 1～5回目	「指板上の音」の学習、コードの概念、チューニングや譜面の重要性 ・6弦/5弦/4弦の指板上の音を覚える方法。・オープンコードの成り立ちやセーハコードへの移行方法。・3和音(トライアド)の学習。・チューニングの重要性、アーティスト・ミュージシャンから見た譜面の重要性。				
【前期】 6～10回目	4和音(オープンコード&セーハコード)の学習 & 各スケール練習方法 ・3和音(トライアド)からの応用、4和音の理解と学習。・メジャースケール key=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール key=Am(5position)の習得				
【前期】 11～15回目	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・3和音を用いてリズム譜を演奏する技術・4和音を用いてリズム譜を演奏する技術(3和音含む)				
【前期】 16～19回目	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・コード進行表 & リズム譜を同時に理解し演奏する方法 前期試験				
【後期】 20～24回目	調号(key)を理解した演奏の習得 ・前期で習得したメジャースケール、マイナースケールを用いて、色々なkeyでスケールを演奏・ダイアトニックコードの理解 ・メジャースケール Anykey=C(5position)の習得・ナチュラルマイナースケール Anykey=Am(5position)の習得				
【後期】 25～29回目	業界標準のスコアの読み方を習得 ・マスター譜面から、必要な情報を読み取り演奏できるようにする。(調号、楽典含む) ・現場に必要な音符読みトレーニング				
【後期】 30～34回目	マイナーのダイアトニック・コードにおけるファンクションの理解と習得 ・ナチュラルマイナー(エオリアンモード)の理解と習得・ハーモニックマイナーの理解と習得・メロディックマイナーの理解と習得※各スケールの代表的な使い方のレクチャー				
【後期】 35～37回目	指板上の音、コード(3和音 & 4和音)、スケールの全把握と進級時に今後必要な知識の整理 ・「ヴォイシング」に活用できる指板上の音の把握・コードの概念、応用法・2年次のダイアトニックコードの活用について、音楽業界へのアプローチアドバイス・後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					